

2021年度 ローカルSDGsで四国を変える人材になる

ローカルSDGs



# 四国の創り手人材育成 プログラム研修

2021年  
12月23日～2022年2月23日

環境省中国四国地方環境事務所四国事務所  
四国環境パートナーシップオフィス  
(受託団体:特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク)

# Introduction

この研修は、四国の地域資源を活用し、ローカルSDGsの視点をもって、課題解決の方策を探り、事業を創り出し共に動かす人材、ココロザシを共に共有し実現に向けて歩む仲間づくりをめざして実施しました。

今年度のフィールドは、香川県と愛媛県。「もったいないものを利用して何か事業にできないか?」、「四国の自然資源をエネルギーに変えられないか?」など、事業化するための方法やITデジタル活用等、専門家からのアドバイスを受けながら学び、実践に向けての一步を踏み出そうと、募集を行いました!

四国内外から思いを持った若手世代の皆さん19名9チームの参加で研修を実施し、報告にとりまとめました。



2021年度 ローカルSDGsで四国を変える人材になる

## ローカルSDGs 四国の創り手人材育成プログラム研修

この研修は、四国の地域資源を活用し、ローカルSDGsの視点をもって、課題解決の方策を探り、事業を創り出し共に動かす人材、ココロザシを共に共有し実現に向けて歩む仲間づくりをめざして実施します。今年度のフィールドは、香川県と愛媛県。「もったいないものを利用して何か事業にできないか?」、「四国の自然資源をエネルギーに変えられないか?」など、事業化するための方法やIT デジタル活用等、専門家からのアドバイスを受けながら学び、実践に向けての一步を踏み出しましょう! 四国内外から思いを持った若手世代の皆さんの参加をお待ちしています!

●研修ズーム説明会 12月8日(水)か14日(火)  
18:30~19:30  
事前申込先  
4epo@4epo.jp

●日程: 2021年12月23日(木)~2022年3月5日(土)  
●参加費: 無 料(現地視察に係る交通費や集合場所までの交通費は自己負担) ※申込締め切り 2021年12月20日(月)  
●募集コース:

<b>コース1 ▶ もったいないロス</b> 主な訪問先-研修協力先(高松市内) ▶ バイオガスプラント(ちよだ製作所) ▶ うどん製造現場(さぬき麺業) ▶ 衣類リサイクル・リサイクル品活用	<b>コース2 ▶ 再生可能エネルギー</b> 主な訪問先-研修協力先 ▶ 太陽光発電、熱利用(えひめ住販モデルハウス) ▶ 小水力発電(伊予市内) ▶ バイオマス発電(内子バイオマス発電所)
--	--

応募要件:  
SDGsやESDに関心があり、四国で事業(プロジェクト)を  
起こしてみたい若手社会人等(概ね40歳未満、個人事業  
者・経営者等を含む)20名程度(定員になり次第×切)、  
グループ単位での参加(2~5名)を数回します。

お申し込み  
4epo@4epo.jp  
参加ご希望の方は申込フォームを  
ご利用ください  
<https://forms.gle/WBJ2narZ4TAGVKNKJ7>

お問い合わせ 四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO) TEL 087-816-2232  
主催:環境省中国四国地方環境事務所(四国事務所)、四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)  
(後援:四国地方ESD活動支援センター(申請中))  
この事業はローカルSDGs 四国(LS四国)の取り組みの一環で実施します。





## Schedule

### ■事前ワークショップ(会場・オンライン)

日時: 2021年12月23日(木) 19:00~21:00

場所: Setouchi-i-Base(香川県高松市)、オンライン

内容: 講師を迎え、企画立案で大切な「鳥の目」を養うワークショップを実施。

### ■フィールドワーク(現地・オンライン)

香川: 2022年1月8日(土) 10:00~16:00

9日(日) 10:40~15:30

もったいないロス: さぬき麺業、ちよだ製作所、セカンドハンド、さくらやを見学

愛媛: 2022年1月15日(土) 9:00~17:00

29日(土) 10:00~12:00

再生可能エネルギー: 小水力発電、バイオマス発電、太陽光発電・熱利用現場を見学

ふりかえり会: 2022年1月15日(土) 18:00~20:00

### ■事業企画ワークショップ(オンライン)

日時: 2022年2月11日(金) 13:00~16:15@オンライン

内容: 「ビジネスプラン見える化BOOK」の説明と研修者の事業企画発表

### ■成果発表会(オンライン)

日時: 2022年2月23日(水) 13:00~16:00@オンライン

内容: Beyondミーティング形式で研修参加者から事業企画を発表、「お題」に沿ったアイデア出し、仲間づくり

## 事前ワークショップ

【日 時】 2021年12月23日 (木) 19:00~21:00

【場 所】 Setouchi-i-Base (香川県高松市)、オンライン (Zoom)

【内 容】 多様な検索エンジンを使用した情報収集やチームで取り組む上での心構えなどを学んだ。

【講 師】 池嶋 亮氏 (プランナー/Setouchi-i-Base コーディネーター)

企画を考える時の3つのポイント

鳥の目	虫の目	魚の目
		
自社を取り巻く マーケット全体を 俯瞰する	ユーザーや マーケットをミクロな 視点で分析する	自社を取り巻く マーケットの流れを 捉える

事例調査のコツ

① Googleだけでなく、いろんな検索エンジンで検索する。

- ・ Yahoo! JAPAN
- ・ YouTube
- ・ Facebook
- ・ Twitter
- ・ CNN.co.jp
- ・ Microsoft Bing

② ユニークな記事が集まっているWEBメディアを徘徊する。

▼海外の事例調査に強いWEBサイト	▼テクノロジーの事例調査に強いWEBサイト
・ WIRED	・ ハフィントンポスト
・ ターリエ ジャパン	・ MITテクノロジーレビュー
・ bouncy	・ キズモード・ジャパン
・ TABI LABO	
・ カンスライオンズ (日本語版)	
▼社会課題系に強いWEBサイト	▼商品開発、ビジュアルに強いWEBサイト
・ green2.jp	・ Instagram
・ ソトコト	・ Pinterest (ピンタレスト)

池嶋の課題解決型の企画の流れ

与件・課題・背景・現状の整理

↓

**【鳥の目】 国内外の事例調査**

↓

【虫の目】 自分たちの課題を徹底的に分析する

↓

【魚の目】 今後の変化を予兆する、未来の予測を立てる

↓

現時点で最善の企画を考える

大切なのは  
「正解」ではなく  
「最適解」を探す  
という姿勢



池嶋さんから、企画立案に当たって大切な「鳥の目」(マクロな視点)を養うことの重要性を学びました。



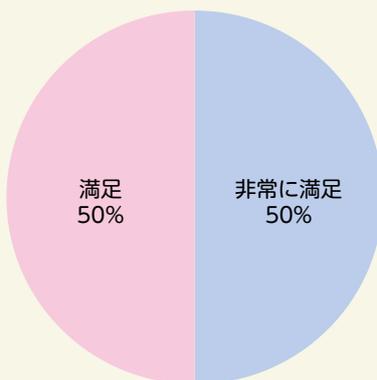
## 事前ワークショップ参加者集合

### 参加者の気づき・感想 (一部抜粋)

- ・GoogleとFacebook以外でもたくさん情報を取る必要性を感じた。
- ・参加者の皆さんの意識が高い!
- ・知ることの大切さ、情報収集能力、情報へアクセスする力の大切さに気がついた。知っている情報を信じるのではなく、探求、追求し、あらゆる事例を調べ尽くすことが課題解決への近道であり、新しいことを生み出すきっかけになると思った。
- ・オンライン情報リソースの使い方をわかりやすく、よかった。
- ・調べることの重要さ、そこからの気づきを大切にしたい。
- ・検索エンジン毎に違う検索結果が得られ、日常業務での選択肢を増やし偏らない情報収集について気づきがあった。
- ・大切なのは正解ではなく最適解
- ・問題解決のヒントを得るためにいろんな検索エンジンを使うことも手段の一つである。
- ・SDGs理解にとどまらない、各種の有用な検索URL や 経験から編み出されたりサーチ手法とその勤どころを得た。
- ・池嶋さんのユーモアに溢れ、エッジの効いたセンスはとても真似できない。場を盛り上げる雰囲気づくりと無料受講でここまで情報やテクニックを提供いただき、初回から大満足だった。
- ・情報収集の方法、そして、そこから何をピックアップしていくかを学ぶことができた。常に敏感に情報を集める姿勢が大切なのだと感じた。
- ・Twitter, Facebookも検索ツールとなり得る事、その理由も納得した。
- ・地域ごとで新しい取り組みがされていることを知り、新しいことをしたいと思った。

### アンケート結果

#### 事前ワークショップの満足度 (回答数:14件)

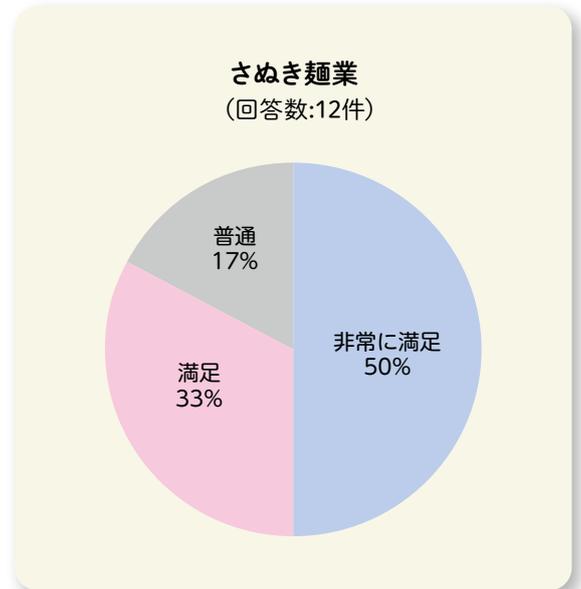


研修参加者からは「知ることの大切さ、情報収集能力、情報へアクセスする力の大切さに気が付いた。」や「大切なのは正解ではなく最適解であることに気づいた。」など好評いただきました。

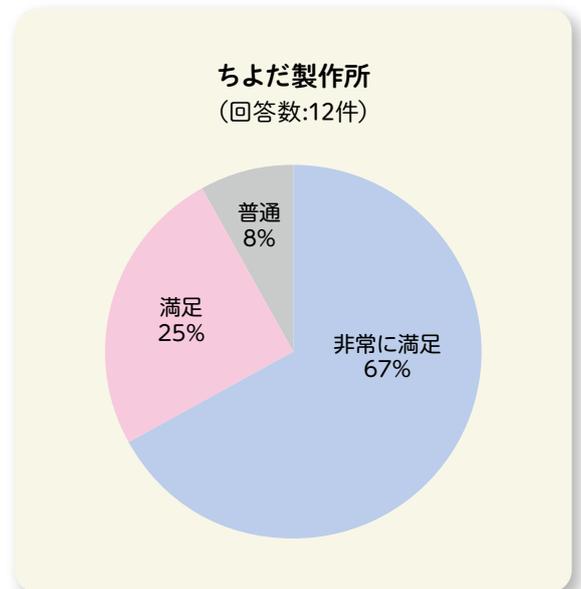




さぬき麺業香川社長の講義の様子



ちよだ製作所尾寄氏の説明の様子



**フィールドワークでの  
気づき・感想  
(一部抜粋)**

- ・うどんのフードロスの量2万食/日に驚いた。そしてその価値を廃棄していたという事実にも驚きを覚えた。
- ・地域と取り組み、企業・行政を巻き込み取り組み。その一環でSDGsが含まれているという事を感じました。
- ・設備の有効性はわかっているのに投資出来ないなら、ファイナンスに詳しい人材が必要と感じた。
- ・ちよだ製作所では教育の観点からの説明があり、SDGsファシリテーターを育成すると良いと思った。
- ・うどんは安い!というのが私たちの常識だが、香川の伝統を守るという観点から、エコ活動は持続可能ではないと感じた。
- ・ちよだ製作所のお話から、子どもへの環境教育は欠かせない。セットにして考える必要がある。
- ・それぞれのプロジェクトに関わる方の熱意の高さが印

象的でした。

- ・熱意、信念を持つこと、パートナーシップの必要性
- ・全ての事業において、周りのひとや団体とのパートナーシップが友好的であることが成功の条件ではらないかと思いました。
- ・それぞれ違った学びがあった。まだまだ知らないことが多いと感じた。
- ・いろいろな人と連携し新しい事業が生まれれば良いと感じた。

## フィールドワーク「もったいないロス」2日目

【日 時】 2022年1月9日 (日) 10:40~15:30

【内 容】 (公財) セカンドハンド、学生服リユースshopさくらやを見学

【講 師】 石井 花氏・川内 衣梨絵氏( (公社) セカンドハンド事務局)

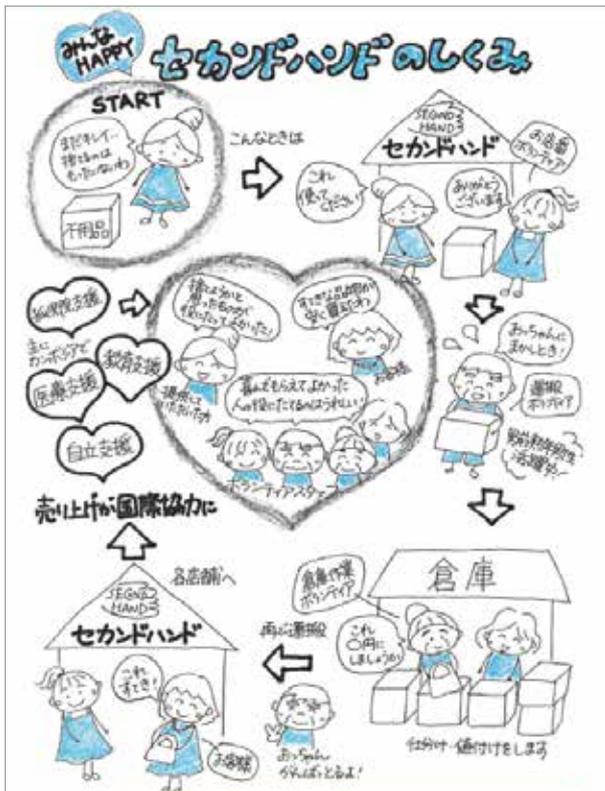
馬場 加奈子氏(学生服リユースShopさくらや創業者・オーナー)



セカンドハンドでの集合写真



さくらや高松店での集合写真



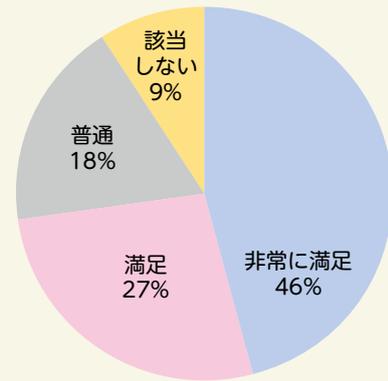
全国に展開しているさくらやが、どのような思いと考え方を持って経営されているかを学びました。(当日配布資料より)

セカンドハンドの仕組みでは、チャリティショップがどのように運用されているかを学びました。(当日配布資料より)



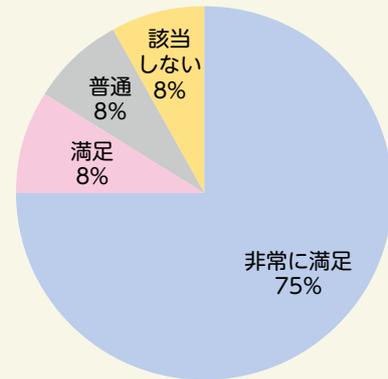
セカンドハンドでの説明の様子

### セカンドハンド (回答数:12件)



さくらやでの説明の様子

### さくらや (回答数:12件)



### フィールドワークでの 気づき・感想 (一部抜粋)

- ・事業を立ち上げる人はそれにかかる思いが強く、熱量が非常に高いことを改めて実感した。
- ・ブランディングを意識する事は大事。ブログも毎日続けることが大事。スモールスタートしPDCAサイクルを回す事で成功につながる好例だと思いました。
- ・「ソーシャルビジネスのエッセンス」が良く理解できた。
- ・講師のお話はとても面白かった！講師のパワフルさに圧倒され、熱い思いを持って活動されていると思った。
- ・事業化するには、自分がやりたいと思えることをやるべきであり、それが熱意となって行くと感じた。
- ・異業種の方々との視察は、自分にはない視点や考え方に触れることが刺激になりました。
- ・2日目のイベントは女性起業家と言うこともあり、大変興味深かったです。女性起業家というイベントも欲しいです。
- ・非常に面白い企画でした！！ハイブリッドでしたが、現

- 場におけるリアル感ライブ感があると、段違いに気が付きが多く、素晴らしいと感じました。
- ・現地で参加できなかったのが非常に悔やまれるぐらい素晴らしい機会をありがとうございました。明日から実践すべき事も学ぶとして得られました。
- ・大変学びが多い2日間でした。今後、自分の事業計画にどのように活かしていけるか考えていきたいです。
- ・実際にもったいないロスへ取り組んでいる事業の方々のお話を直接聞くことができ、何か自分たちでできることはないかと考えるきっかけとなり、大変良かった。
- ・いろいろな人とこれからも繋がりを大事にしたい。

## ■フィールドワーク「再生可能エネルギー」18目

【日時】 2022年1月15日(土) 9:00~17:00@オンライン

【内容】 小水力発電、バイオマス発電の現場を見学

【講師】 入岡 利成氏(一社) 小水力開発支援協会監事  
内藤 昌典氏(有)内藤鋼業代表取締役



小水力発電についての説明の様子



内子バイオマス発電所の紹介

### 小水力発電とは

#### 法律で異なる「小水力」の定義

- FITでは出力3万kW未満が買い取り対象
- 世界的には1万kW未満を対象とするケースが多い
- 日本の政策では1000kW未満を指す場合が多い

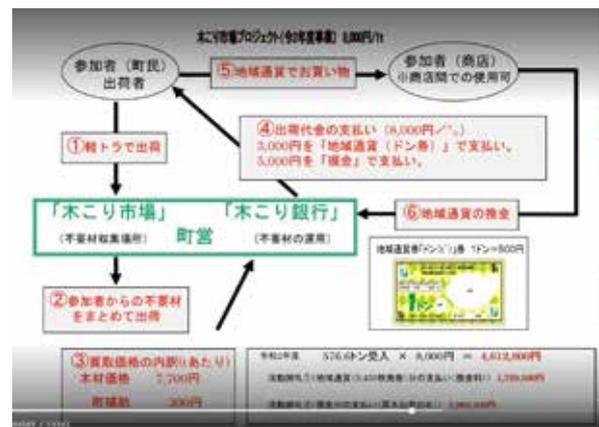
ここでは出力1000kW未満を「小水力発電」と定義します。

#### 小水力発電のエネルギー

- 得られるエネルギーは、水の量(流量)と落差で決まる  
→位置エネルギーを電気エネルギーに変換
- 理論的な出力は次の式で求められる

$$\text{出力(kW)} = \text{流量(m}^3/\text{秒)} \times \text{落差(m)} \times 9.8 \times \text{(効率)}$$

「小水力発電基礎講座」全国小水力427/29石版氏資料より引用

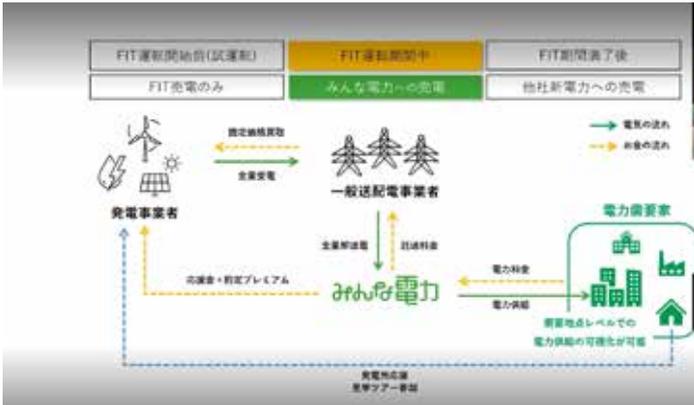


発電方式の分類では、「流れ込み式」、または「水路式」となり、一般河川、農業用水、砂防ダム、上下水道など、現在無駄に捨てられているエネルギーを有効利用できることを学んだ。

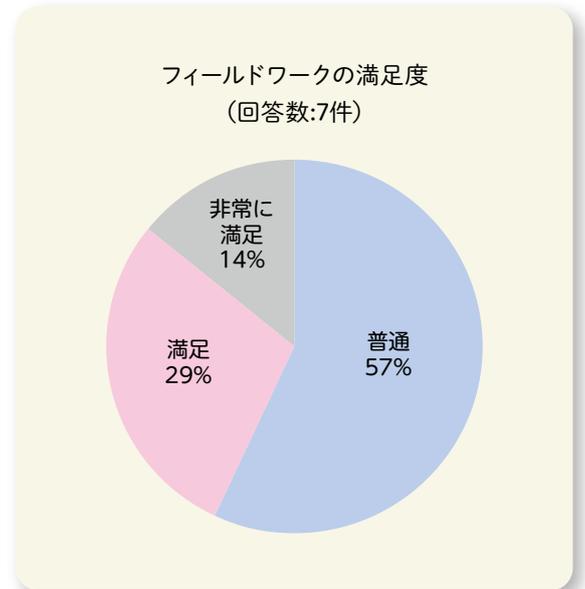
現在、内子町では木こり市場プロジェクトが運用されており、地域通貨券を活用し、木質バイオマスを中心とした地域循環の仕組みがあることを学んだ。



流量と流速の測り方説明の様子



内子町バイオマス発電所の電力配送電の状況



### 参加者の気づき・感想 (一部抜粋)

- ・今まで気にせず素通りしていたコンクリートの川壁に、意味や効果があり、地域を支えているシステムになっていることが分かった。川縁を歩く時の見方が変わった。
- ・小水力発電の現場での話がすごく興味深かった。
- ・小水力は、水の道を調べ、実際に使えるか確認していることを聞き、地道な作業が必要という驚きがあった。
- ・小水力発電候補地の調査では、地域と連動する必要があるが、昔(江戸時代)の地図を元に調査する必要があり、大変だなと感じた。
- ・投機を投資に結び付けるためには正確な資料を基に机上で検討しリスクを減らし、いくつも種を蒔いてパラで進めていく必要があるそう。
- ・伊予市内河川では、これまで気にしたことがなかった河川や用水路の見方をすることができてとても面白かった。
- ・木質バイオマスでは、地域のお困りごとをどのようにしたら解決できるか。自分の中だけで解決する必要はなく、協力することでネットワークができ、大きな力になることを知り、地域に還元、循環させていくことで長く続くことを学んだ。
- ・バイオマスは、メインのバイオマスの活動だけでなく、

- そこから幅広く派生させ行動に起こしているところ、一つ完了しても次のステップに繋げる行動をしていくことが継続に繋がっているのだろうなと感じた。
- ・内子バイオマスは、持続可能な再生可能エネルギーと地域活性化が繋がっていることを知り、周りをうまく巻き込んでいく仕組みづくりが大切だと気づきました。
- ・木質バイオマス発電は町全体で再生可能エネルギーに取り組んでおり、未利用木材や木の皮・灰まであらゆるものを再利用しようとした試みがここまで事業化しているのはすごいと感じた。
- ・内子バイオマス発電所では、地域の山の状態の改善、内子町地域を持続可能な町にする取り組みとして行っていること、またそれらを大きな利益よりも町の住民や事業者など全てのひとたちに小さくても利益が発生する仕組みにしていることが印象的だった。
- ・伊予市も内子町も、地域に熱意のある方がいることが印象に残った。
- ・地域に根づかせるためには、地域の自然と人の両方との協働が必要と感じた。
- ・パートナーシップの重要性

## ■フィールドワーク「再生可能エネルギー」 2日目

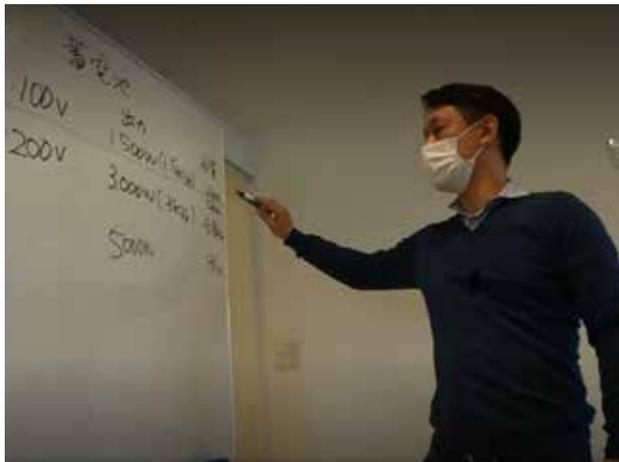
【日 時】 2022年1月29日 (土) 10:00～12:00@オンライン (Zoom)

【内 容】 太陽光発電・最新モデルハウスを見学

【講 師】 滝口 貴士氏 (えひめ住販(株)代表取締役)



参加者集合写真



蓄電池についての説明の様子

えひめ住販 地域の循環モデルで、従業員満足度アップにも！



当日講義いただいた資料

### 参加者の気づき・感想 (一部抜粋)

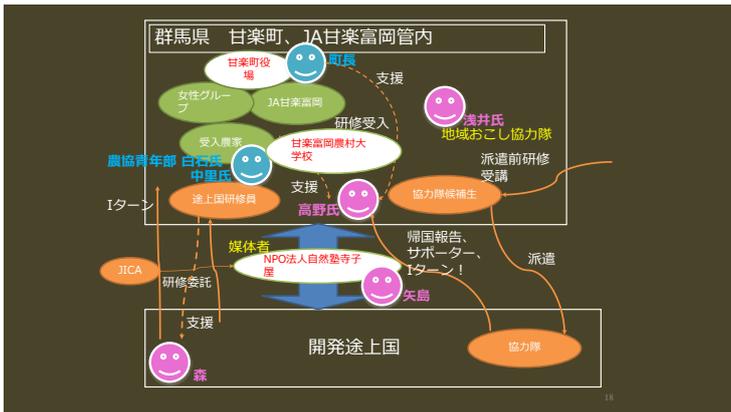
- ・家を畑と考える発想がなかったので、新鮮さを感じた。また、家の温かさを感じるためには窓を2重にする等色々取り組みがあることを知れてよかった。
- ・ソーラーパネル以外にも、家の造り、素材などの工夫で省エネされ環境にいい家ができることがわかった。
- ・住宅販売業界が、御社のようになる日は遠くないと思った。熱心に取り組まれる姿が素敵でした。
- ・太陽光の活用や省エネ、蓄電に関することを学んだ。
- ・自家消費の考え方が参考になった。
- ・実際のモデルハウスを見学出来、よかった。

## ■フィールドワークふりかえり会

【日 時】 2022年1月15日(土) 18:00~20:00 @オンライン (Zoom)

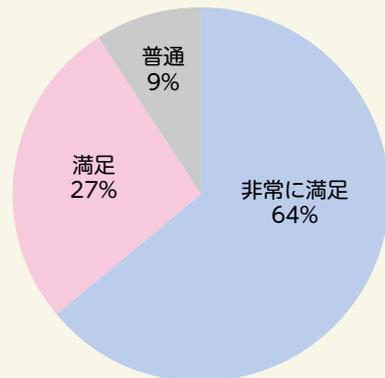
【内 容】 フィールドワークでの気づきを参加者間で共有し、  
外部講師から地域で取り組むためのアドバイスを得る

【講 師】 矢島 亮一氏( (特活) 自然塾寺子屋理事長)



国際協力と連携した地域づくりに関する説明資料

フィールドワークふりかえりの満足度  
(回答数:11件)



### 参加者の気づき・感想 (一部抜粋)

- ・何かを実施する際は、地元の人など周りを巻きこむことが大切と分かった。
- ・継続的に活動している方の話を聞き、勇気づけられた。私自身も活動の一步を踏み出していきたい。
- ・地元の人同士もしくは地元の人とよその人を結び付けることがキーになりそう。
- ・各参加者がそれぞれで感じたことを共有する場になってよかった。同じ思いを持つ人、自分になかった考えを知ることができて良かった。
- ・他の方の意見を聞き、考え方や活かし方を自分なりのものとして考えていきたい。
- ・参加者のアントレプレナー精神を感じた。サーキュラーマインドでビジネス化へ向かう気概がとても素敵で、心から共感した。
- ・ESD発ベンチャーの成功事例ができるかと…面白い！これこそ四国の潮目が変わりそう。
- ・ふりかえりでは、参加者の気づきを聴くことができたが、もう一步形にしていくエンジンが欲しい。それが何かわからず、起業することは難しいで終わってしまう。
- ・目の前にあるもの、途上国や田舎にしかないものがあるとすると、それは大変な強みではないか。それを発掘していきたい。
- ・SDGsや地球環境への関心が広まってきた中で、コストだけではない、社会を良くしようとする信念が、今後のプロジェクトでは重要となってくる。

## ■ブラッシュアップダイアログ (第1回・第2回)

【日 時】 2022年1月20日 (木) 19:00~20:00、27日 (木) 19:00~21:00 @オンライン (Zoom)

【内 容】 参加者が企画している事業内容について、質疑応答を経て、アドバイスを行った。

## ■追加のブラッシュアップダイアログ

【日 時】 2022年2月17日 (木) 19:00~21:00

【内 容】 成果発表会で発表する資料やお題について、意見交換し、アドバイスを行った。



参加者記念撮影

## ■事業企画ワークショップ

【日 時】 2022年2月11日 (金) 13:00~16:15@オンライン (Zoom)

【内 容】 「ビジネスプラン見える化BOOK」を軸としたインプットや研修者の事業企画発表、ブラッシュアップ

【講 師】 岡本 輝之氏 (日本政策金融公庫国民生活事業本部四国創業支援センター所長)

## ローカルSDGs四国の創り手人材育成プログラム事業 事業企画ワークショップ



令和4年2月11日  
日本政策金融公庫 国民生活事業本部  
四国創業支援センター

1

JFC 日本政策金融公庫  
国民生活事業

### 見える化ブックの構成

- 1 はじめに (P.2・3)  
事業計画案定の意義、「見える化BOOK」の特色等
- 2 サマリーシート (P.4・5)  
各ワークシート (P.19~29) から要点を切り出し、1枚の計画書にまとめるシート
- 3 S Bに必要な6つのステップ (P.6~17)  
・ S Bの持続的活動に必要な6つの要素について紹介し、着眼点や具体例(事例)、ワーク方法を掲載  
・ ステップごとにワークを行い、ワークシート (P.19~29) に記入していく  
 (1) 組織使命：組織のビジョンを明確にし、仲間と共有する  
 (2) 現状把握：問題が発生している構造全体を捉える  
 (3) 実現位置：ビジョンの実現に向けた解決策を打ち出す  
 (4) 成果目標：どのような成果をどれだけ届出するかを考える  
 (5) 財務戦略：収支計画・資金調達手段を考える  
 (6) 組織基盤：チームビルディングに取り組み
- 4 コラム (P.18)  
ソーシャルビジネスの事業評価をめぐる最近の動向と手法を紹介  
 (1) 社会的インパクト評価  
 (2) ロジックモデル
- 5 ワークシート (P.19~29)

JFC 日本政策金融公庫  
国民生活事業

参加者は構想中の企画を「ビジネスプラン見える化Book」のサマリーシートに落とし込む作業に挑戦しました。

### 【スケジュール】

- 13:00 開会
- 13:05 日本政策金融公庫による講演
- 14:15 各チームの取組内容を発表
- 14:45 各チームに分かれアドバイザーを含めた意見交換・ブラッシュアップ
- 15:35 気づき・感想の共有とアドバイザーからの講評
- 15:50 次回に向けての準備・説明
- 16:10 今後のお知らせ
- 16:15 閉会

### 参加者の気づき・感想 (一部抜粋)

- ・ブレイクアウトルームで話せて良かった。
- ・連携していくためには、声をかける先と一歩踏み出す勇気が大切だと感じた。
- ・オンライン上で意見交換をする難しさはあり、もっとお互いの情報を出しあうことができると感じる。
- ・ブレイクアウトルームで、当事者以外の方の意見を聞くことの面白さに気づいた。
- ・新たな視点や考えを得ることができた。発表に向けて、今回の意見を参考にまとめた。

## ■成果発表会

【日 時】 2022年2月23日 (水) 13:00~16:00 (~16:30) @オンライン (Zoom)

【内 容】 Beyondミーティング 形式で研修参加者から事業企画を発表、「お題」に沿ったアイデア出し、仲間づくり



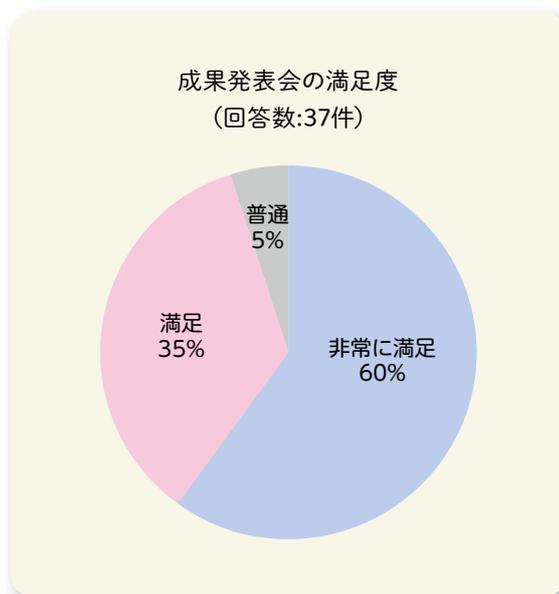
 排水を活用した 陸上養殖	 みかんまるごと 循環プロジェクト	 中高生対象 自分の気持ちを 表現して、実現化計画	 空海を驚かせ！！ “4県の個性が輝く”、 誰も取り残さない 四国を作る	
 新しい、 古紙リサイクル	 世界と食品ロス	 私の共創の場 (co creation space づくりにおけるビジョン)	 SDGs × キャリア教育の旅	 教育現場を通じた 持続可能な内子町 へのアプローチ



ETICの米田氏より  
Beyondミーティングの説明をいただきました。

## ◆プログラム

13:00	挨拶 中国四国地方環境事務所
13:05	お作法説明、オリエンテーション
13:35	事業企画発表①（3分×5チーム）
13:50	参加者希望ルームの入力、休憩
13:55	プレストの楽しみ方
14:00	プレスト作戦会議①（各チームの事業企画の活性化のアイデアを出し尽くそう！）
14:30	応援タイム
14:35	事業企画発表②（3分×4チーム）
14:50	参加者希望ルーム入力、休憩
14:55	プレスト作戦会議②（各チームの事業企画の活性化のアイデアを出し尽くそう！）
15:25	応援タイム、つながりタイム
15:40	講評
15:50	LS四国からのお知らせ、クロージング、集合写真
16:05-16:30	放課後タイム（※任意参加）



参加者記念撮影

### 参加者の気づき・感想 (一部抜粋)

- 皆さんの企画が参考になりました！
- どの取り組みも本当に感動致しました。これからも応援しています。
- ブレークアウトルームでのプレストはとても充実してました。皆が参加できるところが良い。
- いろいろな立場の方から話が聞けてよかった。
- 様々な意見が聞けて楽しかった。参加したプレスト以外のプロジェクトももっと詳しく聞きたかった。
- 様々な取り組みについて、自分事できるような工夫がありました。
- 学生では普通得られないような学びと出会いがありました。
- それぞれの意見を参考に実行に移していきたい。
- 時間配分が適切だったと思う。グループワークも非常に話しやすい雰囲気でした。
- プレストの時間が、更にアイデアを深める時間になって良かった。
- これほどの人たちがSDGsに向かっていこうとするパワーの強さを感じた。
- 最近、ロジックに偏重しすぎていたので、原点回帰できた。とにかく楽しかった！
- 発表会の進行が面白くて良かった。
- 登壇者の皆さまのメッセージ性が強いことでとても引き込まれた！



四国でローカルSDGs (地域循環共生圏) に資する取組を生み出し、創造していくプラットフォーム！

### ビジョン

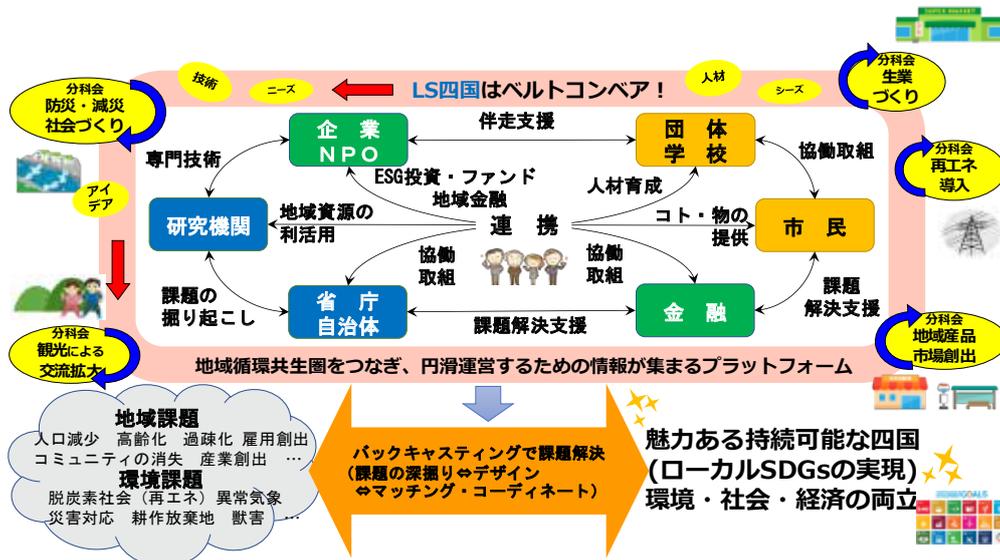
## いのち輝く、青い国・四国を次世代へ

自然資源の恵み・つながりを活かし、伝え、地域・社会がそれぞれの特性を發揮しながら、連携して支え合いSDGsの目指す環境・社会・経済の調和を図りながら持続發展する活力あふれる四国地域の創造

### 行動指針

ビジョンを達成するためにローカルSDGs (地域循環共生圏) の考え方を尊重し行動します。

- 1) ローカルSDGsの考え方を実践する場づくりを進めます。
- 2) **ローカルSDGsの視点をもった創り手の発掘、育成を進めます。**  
※科学的根拠に基づいた調査研究、知見を活用
- 3) イノベーションの導入やESGの視点を取り入れたビジネスの創出及び地域経済循環の向上を目指します。
- 4) 自然と人が共生する循環型社会を構築し、脱炭素化へのパラダイムシフトを進めます。



## ■人材育成プログラム協議会

【日 時】 2021年12月3日（金）15:00～17:00、2022年3月2日（水）

15:00～17:00@オンライン（WebexMeetings）

【内 容】 事業を円滑に推進するために、協議会を設置し下記の方へ委員を依頼し、2回の会合を実施した。

第1回は、事業概要の説明と広報に関する意見交換を行った。第2回は、事業結果報告と質疑応答を行い、今後の方向性について意見をいただいた。

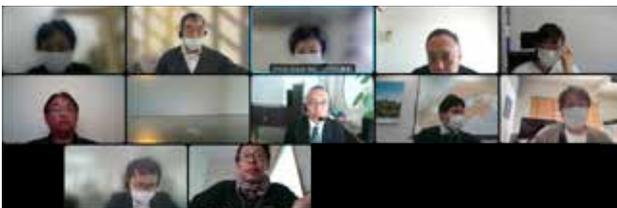
### 委員名簿

県	分野	委員
愛媛	有識者 企業 金融機関	入江賀子（愛媛大学社会共創学部准教授）
		堀内章（愛媛県中小企業家同友会求人教育委員会）
	メディア フィールド	岡本輝之（日本政策金融公庫国民生活事業本部 四国創業支援センター所長）
		河野淳（株）マチサポ代表取締役社長）
香川	有識者 企業 金融機関	米田順哉（（特非）えひめリソースセンター理事）
		古川尚幸（香川大学経済学部教授）
	メディア フィールド	竹内一之（香川県中小企業家同友会環境経営委員会）
		岡本輝之（日本政策金融公庫同上）
		谷本小百合（高松リビング新聞社編集長）
	久米紳介（うどんまるごと循環コンソーシアム事務局長）	



#### 第1回委員会で上がった委員からの意見（一部抜粋）

- ・効率的に進めるためにあるものを活用すること、専門家に幅広く呼び掛け、技術的な課題もアドバイスをもらう体制を取れると良い。
- ・参加者が課題を持っているか、いないかで大きく違う。見える化BOOKは課題が見つからないと書き進められない。研修入口の段階で課題を明確にしておいたほうが良い。
- ・社会人に的を絞った方が、短い期間で気づきが多い。



#### 第2回委員会で委員からの意見（一部抜粋）

- ・いろいろな人たちをターゲットにツアーとして組み合わせていく提案があった。この企画に他の研修者の取組が便乗できる。
- ・見える化BOOKは、読んだだけでは理解が難しい。この事業を継続するのであれば、スケジュールの中で早い段階で説明ができればよい。
- ・メディアに取り上げられやすい情報発信の仕方があるので検討すべき。
- ・発想としてマーケットインになっているべき。ニーズが本当にあるのかを深めるのも重要。

# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



- ローカルSDGs四国ホームページ  
<https://ls459.net/>

#### 問い合わせ先

- 環境省中国四国地方環境事務所四国事務所環境対策課  
 TEL: 087-811-7240  
 Eメール: info@ls459.net
- 四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)  
 TEL: 087-816-2232  
 Eメール: info@ls459.net